うたがき

筑波大学附属図書館 ボランティア広報紙



第 26 号 2017 年 10 月発行

CONTENTS

- ① 活動の場から
- ② 新人さん感想
- ③ フィールドワーク 2017
- ④ 主な活動



活動の場から

その2 ~利用環境整備~

本学図書館は全国の国立大学の中でも屈指の 開架率を誇る図書館である。所蔵する二百数十万 冊の資料は請求記号順に配架されている。利用者 の方に図書館を気持ちよく利用していただける ようにするのが、私たちボランティアの役割だ。

主な活動は、シェルフリーディング(書架整理) と図書修理で、中央図書館と体育・芸術図書館で 行っている。シェルフリーディングは、配架され ている図書を、請求記号順にならべ、書架の清掃 をおこなうことである。活動中に行方不明の本を 探し出したりすることもある。時々ラベルの剥が れや破損が発見されるので、軽微なものはその場 で補修する。それ以上に破損がひどい本を1冊ご とに丁寧に修理するのが図書修理の活動だ。

ものを言わぬ本であっても、自然に愛着がわき、なんとかしてあげたいと思うようになるのが、この活動の不思議なところだ。書架の整理中に思いもかけぬ本に出会う場合があり、これも楽しみだ。デジタル機器の利用も便利だが、図書館に通い読書に没頭することもさまざまな知識を得る可能性につながるかもしれない。



今年度の新人さんに活動の感想を聞いてみました♪

供が学校に行き始め、自分の時間が少しずつできてきたこともあり、 以前から興味があったボランティアを してみよう!と思い立ち、どんなもの があるかインターネットで検索してい たところ、偶然『筑波大学図書館ボラ



ンティア募集』という文字が目に入り急いで応募、今 年度4月よりお世話になっている。

週1回、ボランティアカウンターでの活動だが、学内外の方に本の借り方を案内したり、本が見当たらない時には一緒に本を探すこともある。目当ての本が見つかった時には、まるで自分のことのように喜んでしまった。(館内なので小声で)

まだわからないことだらけだが、周囲の方に助けていただきながら、こちらで毎回学ばせていただいている。少しずつだが、利用される方がスムーズに図書館の利用ができるお手伝いが出来れば、と思っている。(A. H)

** 動に参加して早5ヵ月、総合カウンターと書架 整理を行っている。

まず館内にはフロアー別に 188 万冊の図書が分類、整理されている規模に驚いた。また図書館には「図書館法」という法律があり、「図書館学」なる学問が存在することも知った。

そしてこれまでにない新たな体験もした。留学生か

ら作成途中のレポートを見せられたり、図書検索で書架へ同行し目的の本を見つけ出したりした。 今後も活動を通じて私のミニ・キャンパスライフを楽しみたいと思う。(E.Y)



プレ 1回、ボランティアカウンターに座っている。 4月の緊張が若干収まりつつあるが、カウンター前に 学生さんが立った時は笑顔を作りつつも、やはり心拍 数が上がる。

先日は、睡眠医科学研究機構の見学会に参加した。先端的な研究施設を見せていただいたことも有意義だったが、担当日以外の先輩方、同期の方といろいろなお話ができて楽しい時間を持てた。(E.T)



よります。 これでは、 これでは

実際活動を始めてみると、図書館は「借りるところ」から「案内するところ」へシフト。不安でいっぱいだったが、先輩たちの的確なアドバイスや利用者へのスピーディな対応などをメモしながら、できることから少しずつ学んでいこうと思った。

7月に、中学生の見学案内に同行した。文庫、新書コーナーに差し掛かったところ、鉄骨の筋交いを見ながら震災の話が出た。先輩の箸休め的な演出で、緊張がほぐれ、余裕が生まれたのだった。

図書館ボランティア活動は、大学の広告塔のような役目を担っているように思う。(C.Y)



フィールドワーク 2017 4月~9月

* 留学生おりがみ講習会 *

7月3日(月) $14:00\sim15:30$ 、 チャットフレーム C にて開催された。

当日の参加者は、学生(留学生含)8名、ボランティア7名、その他2名だった。

今回のテーマは『川崎ローズ』。これは川崎敏和氏が考案した折り紙で、『KAWASAKI ROSE』として世界的に知られている。

テーブル上にビビッドカラーの紙(245×245)が 用意されていて各自好きな色の紙を選び準備完了!! まず講師が折り方のお手本を示し、それに沿って折 りスジをつけていく。何が何やら先が見えないまま、 初心者である私は取り残されない様に夢中で折り 紙と格闘。途中で折り方がわからなくなると、講師 やボランティア先輩に助けられなんとか進んでいった。そのうち交差した無数の折りスジは、ある交 差する点を結びながら、直線から曲線へと変化し花 弁として立ち上がっていった。いつのまにか7~8 cmのバラが咲いたのだ。

最後に、講師に伺ったところ、今回の『川崎ローズ』は最高難度だそうだ。にもかかわらず、全員が様々なバラを咲かせることができた。



国際統合睡眠医科学研究機構を見学して



7月に国際統 合睡眠医科学研 究機構を訪問し た。この研究機

関は、睡眠の覚醒機構を解明し、睡眠障害および関連する疾患の制御を通じ、人々の睡眠に関する問題を解決するために、2012年12月1日に文部科学省の国際研究拠点として設立された。

人は、人生の3分の1を眠って過ごしているため、 その質は重要である。新規神経ペプチド「オレキシン」 が、睡眠覚醒制御に重要な役割をしているという発見 により、睡眠学と代謝学の新しい研究領域が創成・展 開されてきた。

そんな科学の先端を担う建物は、内装もユニークで、エントランスの右側に配された研修室の天井には、 眠りをイメージしたモニュメント、通路側のガラスの 壁面には、荘子の『胡蝶の夢』を篆書体で記してある。

また、もう一方の壁面に は、眠りの深さの変化を 陶器で表した作品もあ り、芸術性が感じられる。 多学部 が共存している 筑波大学らしさを感じ る建物であった。



そんな先進研究を担う、細胞分析の研究室では、顕 微鏡機能と細胞スキャン機能を併せ持つ最新機器で 高速化を図っている。

また、研究には、たくさんの実験動物を使うが、特にマウスの利用度は高く、その命に感謝をしながら研究を進めているという話も聞いた。

睡眠に関するメカニズムの解明は難しく、今後さら に研究を進めるための拠点になるであろう。

研究を進めることで、現代社会における睡眠疾患の新しい治療法につながる事を期待したい。

このような研 究施設を見る機



会に恵まれ、すばらしい体験のできた1日であった。

主な活動・・・こんなことをしています

ボランティアは中央図書館と体育・芸術図書館で活動しています。活動時間は毎週月曜日から金曜日の10時から16時(午前のシフトは10:00~13:00、午後のシフトは13:00~16:00)です。 現在、つくば市及びその近郊の市民、約50名が活動しています。



総合案内

図書館利用者すべてに対する、館内の資料配置の案内やパソコンによる資料検索の手伝い。館内巡回。







美術展ポスター整理(体育・芸術図書館にて)

全国の美術館・博物館から送られてくる展覧会ポスターの掲示とデータベース化。





見学案内

新入生、留学生、中高生、一般、海外からの見学者 に図書館を案内する。







日本文化紹介

月1回の勉強会と、年3~4回の主に留学生を対象とした折り紙講習会。新年かるた会。





利用環境整備(シェルフリーディング)

中央図書館及び体育・芸術図書館の書架の整理や、不明図書の探索、図書ラベルの補修。





図書修理

専門的な製本技術を使った図書の修理。





対面朗読

視覚障害者のための対面朗読。館内での 資料探索の支援。





▶広報

広報誌「うたがき」、「図・ボラの会」会報の発行。





☆うたがきのあとがき

新生うたがき第2号をお届けします。附属図書館ボランティアの活動の紹介、行事の報告の他、今回は新人ボランティアとして半年間活動した方々の感想を聞いてみました。これまでにボランティアの経験がある人も全く初めての人も、大学図書館での「生涯学習型ボランティア」を経験してどんな感想を持ったのでしょう?

編集: 筑波大学附属図書館ボランティア広報部

発行: 筑波大学附属図書館

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 TEL 029-853-2348 (アカデミックサポート課) 開かれた大学図書館として広く学外の利用者の方々に開放しています。

詳しくは、https://www.tulips.tsukuba.ac.jp をご覧ください。

* 筑波は、遥か昔に歌垣の習俗があった地。色々な人の声を聞き応え合うことで繋がり、発展を生み出すことを望み、広報紙「うたがき」としました。